道徳科学習指導案

主題名「はしのうえのおおかみ」内容項目：B［親切、思いやり］

令和元年６月２６日（水）第３校時　１年２組教室
１年２組　指導者　小林　弘樹

Ⅰ　授業の構想
１　価値観および児童生徒観

価値観	児童生徒観
親切にすることが良いことだと言うことは分かっているが、心のどこかで意地悪をして「楽しい」「おもしろい」と思う気持ちはあると思う。しかし、人に親切にしたときに感じるうれしさは「後ろめたさ」がなく、親切にした方もされた方も良い気持ちになるところが親切にすることと意地悪をすることの一番の違いであると思われる。 児童にとって、親切な行為をすることによって、得られる喜びについて理解し、親切にしようとする気持ちを育てることは、人の喜びを自分の喜びと受け止め、人の心に寄り添うことができる温かな関わりを築いていくための基盤になる物である。	クラスの児童は、学校や家庭での大人からの言葉がけなどから、人に優しくすること、親切にすることは、いいことであるということは知っている。しかし、それは親切にすることの喜びや、その良さを十分に理解してるとは言い難い。 「褒められるから」「大人が言うから」で、親切にするのではなく、親切にすることで得られる良さについてしっかりと、理解させ、親切にしようとする心情を育みたい。

２　指導方針

視　点	指導方針
自分との関わりで考えるために	・物語の登場人物の気持ちを自分事として考えられるようにするために、おおかみ、うさぎ、くまの３つの役に分けて、役割演技を児童とともに行う。 ・自分事として考えることができるようにするために、学校の中でできる親切なことは何かないか問いかける。
多面的・多角的に考えるために	・登場人物の気持ちを多面的に考えるために、いじわるをしたときのおおかみの気持ちだけではなく、うさぎやくまの気持ちにも触れる。 ・自分だけの考えだけではなく、他者の意見も取り入れるようにすために、考えを交流し、友達の考えをワークシートに赤鉛筆で記述させるようにする。

３　評価の視点

（1）学習指導過程の評価
熊に親切にされた狼の変容をとして、意地悪をしたときよりも、親切にしたときの方がずっと気持ちがいいことを理解することができたか。
（2）指導方法の評価
〇表現活動の工夫(役割演技)。おおかみを演じたり、友達が演じるのを見ることを通して、おおかみの心情を捉えさせることができたか。
〇書く活動の工夫。ワークシートに親切にすることの「よさ」についての記述があるか。